

2026 年度 水資源・環境学会 研究大会

テーマ論題部 要旨

大阪湾における海洋プラスチック問題の現状と課題

藤田 香

(近畿大学 総合社会学部)

本報告は閉鎖性海域である瀬戸内海の一部として大阪湾の特徴を明らかにしたうえで、大阪湾における海洋プラスチック問題の現状と課題について検討するものである。2019年6月に開催されたG20大阪サミットにおいて、日本は2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提案した(2021年5月現在、87の国と地域が共有)。大阪府・市では、このビジョンの発信地として、独自の目標を掲げた「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画を策定している(2021年3月)。2030年度目標として、大阪湾に流入するプラスチックごみ量を半減させること、2050年度目標として大阪湾へのプラスチックごみの流入量ゼロを目指している。本報告では2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)や大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの議論を踏まえたうえで、未来につなぐ大阪湾の環境保全にむけた取り組みと課題について検討する。